

二上山の自然⑧

初夏を彩る生き物たち 協力 久保田 有（自然観察指導員奈良連絡会）

金剛生駒紀泉国定公園内にある二上山はその大半が民有林です。

そのため樹木の伐採が進み、昔ながらの森はすいぶん少なくなっています。

生息する野鳥類は減少し、キツネ・タヌキ・ノウサギといった野生動物も減多に姿を見せなくなっています。

それでもここでは、近畿地方の野山に生息する動植物のほとんどを見ることができると言われます。

私たちの生活に身近な場で、それぞれの生命を精一杯燃やしている生き物たち。

初夏の一日、自然観察指導員の方々と一緒に二上山に登り、道すがら出会った植物や昆虫をレポートします。

加守神社から山道を登り二上山・雄岳の山頂を越えて、馬の背から祐泉寺方面へ向かうコース。途中には雑木林や植林地帯、湧き水、沢などがあり、半日の登山体験はまさに変化の連続でした。

登山口付近で、スミレしか食べないと言われるツマグロヒョウモンの幼虫とダルマガエルを見かけました。植物の葉や枝に似せる擬態で外敵から身を守るナナフシがあちこちの枝にとまっています。クサイチゴ、ニガイチゴなどイチゴ類も豊富です。

オバボタルやシヒゲベニボタルを見かけました。ホタルというと、夜になった

ら光を放つ昆虫というイメージがありますが、昼間に活動する光らないホタルも数多くいるそうです。まるで陣笠をかぶったようなイチモンジシジミガサハムシや、トラカミキリといった昆虫類も無数に生息しています。

山道の岩の間に、ギンリョウソウが白くて可憐な花を咲かせていました。会員さんの話によると、最近では二上山でも減多に見られないとか。その他、ハナイカダやモチツツジ、ササユリなど、あるものは鮮やかに、あるものは地味に花を咲かせる多くの植物と出会いました。

どこからともなく聞こえる「キョッ、



ハナイカダ

ミズキ科の常緑小低木。5月から6月ごろ、葉の付け根の白色の細い花が咲き、紫がかかった黒色の球状の液果を結ぶ。神木として枝葉は神に供えられる。



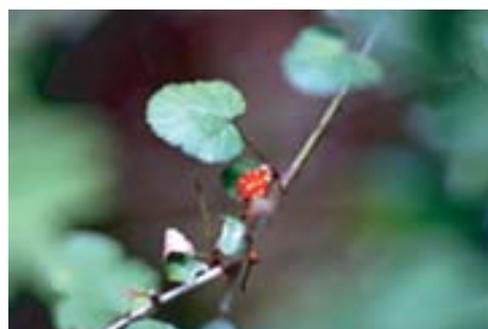
ナナフシ

ナナフシ科。緑がかかった褐色の昆虫。植物の葉や枝に似せる擬態で外敵から身を守る。体に節が7つあることから名づけられた。



ササユリ

ユリ科。丘陵地の土手などに大輪の花を横向きに咲かせる。花の長さは10~15cm。草丈は50cm~1m。細い葉が竹笹のササの葉に似ていることから名づけられた。



ニガイチゴ

バラ科の落葉低木。長い地下茎を縦横に伸ばし、茎には鋭いトゲがある。キイチゴの一種で、初夏に紅赤色の実が熟す。熟した実は甘い、中にある種子を噛むと苦いので苦苺（ニガイチゴ）と名づけられた。



「キョツ」という鳴き声を発しているのはアカゲラ。キジ、コジュケイ、ホトトギス、ツツドリ（ホトトギスの仲間）の鳴き声も聞こえてきます。山頂付近ではテントウムシやチョウの仲間も多くなってきました。

沢の流れとともに下りに入ると、立派なイチチョウがありました。アカタテハやヒメヤママユの幼虫もいます。サ

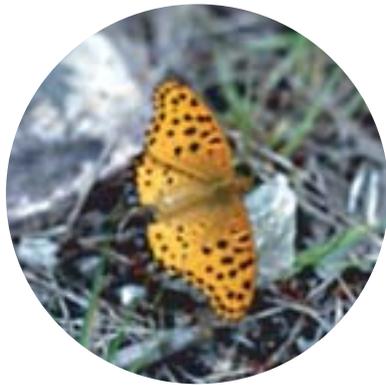


モチツツジ

ツツジ科の中で一番遅く花を咲かせる。花は鮮やかなピンク色で、野生種とは思えないほど端正で美しい。触れるとネバネバしているのが特徴。山道の斜面で見かけられる。

ザトウムシの仲間

クモ網ザトウムシ目の節足動物。小型のクモに似ているが糸は出さず、動きは遅い。歩き方が映画「座頭市」のように見えることから名づけられている。



ツマグロヒョウモン(雄)

タテハチョウ科ヒョウモンチョウ亜科。食草の葉などに直接卵を産みつける。幼虫はスマレ類しか食べない。雌のほうが見た目が派手。



ギンリョウソウ

イチヤクソウ科の腐生植物で、高さ約15cm。葉は白色で半透明。山道の岩の間などに自生する。夏になると、茎の頂上に白い花を咲かせる。二上山で見かけるのは比較的珍しい。

ニワトコ

スイカズラ科の低木。日かげの林縁を好む。高さは3~6m。幹に太い髄があり、照葉林帯から夏緑林帯の肥沃な土地によく育つ。初夏に赤くて小さな実をつける。



ヤブムラサキ

クマツヅラ科。ムラサキシキブの仲間。枝に毛が多く、ムラサキシキブより太い花序に短い梗があり、葉のかげに隠れて下向きに紫色の花を咲かせる。紫色の果実は大粒で数が少ない。

アワフキムシのあわ

半翅目アワフキムシ科の昆虫の総称。セミに似ているが、成虫でも体長約5mmと小さい。あわのかたまりを作ってその中に棲む。





アカメガスワ

トウダイグサ科。肥料分が十分ならどこにでも生える。赤いピロードに似た若葉は花より美しいと言われる。春の芽吹きの色から赤目(あかめがしわ)と名づけられた。



ママコナ

ゴマノハグサ科の半寄生一年草。茎は黒紫色で、葉は長卵形。6月ごろ、白い斑点がある赤紫色の花を穂状に咲かせる。



シライトソウ

ユリ科。山地の林の中やその周辺に生育し、5~6月に花を咲かせる。花序の長さは5~10cm。6枚の花被片を穂状につける。花被片が白い糸のように見えることから名づけられた。

アカシデ

カバノキ科シデ属の落葉高木で、幹は40cmぐらいになる。材は堅く、建築材や薪炭材、シイタケの原木などに使われる。早春、葉に先立ってひも状の花穂を垂らす。



ヒメヤママユの幼虫

ヤママユは褐色をした大型の蛾。幼虫はクスギ・ドングリ・ナラなどの葉を食べ、黄緑色で楕円形の繭をつくる。



二上山の自然⑧

初夏を彩る生き物たち



クサイチゴ

バラ科。キイチゴの一種で、少数の細い刺と密な軟毛がある。白くやや大きい花が咲いた後、1~1.5cmの球状の果実を結ぶ。実は熟すと甘い。



モノサシトンボ

モノサシトンボ科。中型から大型のイトトンボ類、単色の地に黒状斑があり成熟すると雄は青色、雌は淡緑色に変色するものが多い。幼虫は水底にもぐり込まない。



チゴユリ

ユリ科。コナラやミズナラなどナラ林の下に生える。普通は1本の茎の先端にひと花だけの可憐な花を下向きにつける。花の感じから稚児百合と名づけられた。